



新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、感染拡大予防ガイドラインを踏まえ十分な措置を講じた上で開催いたします。
ご来場の際にはあらかじめ右記をご確認の上、マスク着用をお願いいたします。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下のお客様につきましては、ご来場をお控えいただきますようお願いいたします。
*37.5度以上の発熱や咳、くしゃみ、鼻水などの風邪の症状がある方。
*体調がすぐれない方。
*過去2週間以内に発熱や風邪の症状等で受診や服薬をした方。
*感染拡大している地域や国への渡航歴が14日以内にある方。

■2023第100回展記念企画

第100回記念春陽展を創る

「春陽展四つの室 ー多様な芸術表現ー」

———— 2F・チャリティーコーナー



春陽会の創立には多士済々な人々が参画し、その中には洋画を追及するうちに日本や東洋の絵画の良さに目覚めた人々もいました。春陽会は主義主張にこだわらず、自分たちの思いの作品を発表できる場として、新たな一歩を1922年から歩み始めます。その特徴を示すのが創立間もなく設けられた素描・水墨室、挿絵室、版画室、そして戦後の一時期設けられた舞台美術室です。この四つの展示室を図表と事務所に保管されている資料で紹介いたします。

Exhibits

前田藤四郎と春陽会 ————— 3F・展示室



前田藤四郎は戦前から春陽展に出品し、春陽会にも深く関わってきました。創作版画期から関西を中心に活躍し、木版をはじめ様々な技法を、特にリノカット技法に特色ある作品を発表しました。春陽会版画部会員が所有する前田氏の作品や資料、春陽会が発行した春陽帖の記事等を展示します。

■チャリティー展示 ————— 2F・チャリティーコーナー

会員有志による作品の展示、チャリティー販売を行います。
収益は社会福祉法人NHK厚生文化事業団、日本赤十字社を通じて、社会福祉事業、自然災害復興支援のために寄付します。

■春陽会研究会の紹介 ————— 2F・休憩室

春陽会では全国に研究会を設置し、絵画と版画の啓蒙及び研究活動を行っています。
このコーナーではそれぞれの地方研究会をご紹介します。

■春陽会資料室 ————— 2F・休憩室

私のアトリエ～創作の現場から～ 入江観 川野美華 畠山昌子 いしだふみ

春陽会会員のアトリエ風景や道具、インスピレーションの元となる資料・下絵等をご紹介します。

■「皆に知ってほしい春陽会 未来を創る」

～そっと教えます。私が気になる作品～

————— 4月24日(日)開場13:30 開演14:00 閉会15:30 3F講堂

〈絵画〉入江観 横山了平 小池悟 藤沼多門 鈴木善晴 諸星浩子 川野美華 桑島美代子
〈版画〉船坂芳助 鈴木誠一 内山良子 川井一光 〈客員〉海老塚耕一

新型コロナウイルス対策として、講演会は無観客ビデオ配信となる可能性があります。詳しくはホームページで直近情報をご確認ください。

Lecture

第100回展記念企画展のお知らせ

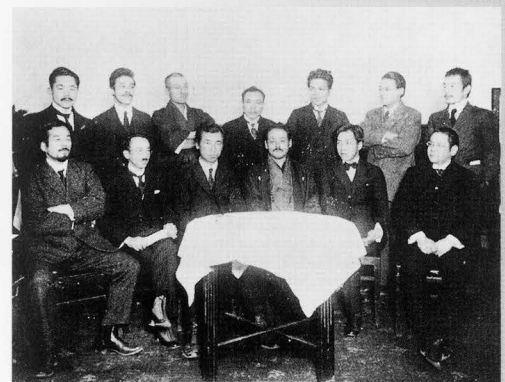
春陽会は1922(大正11)年、小杉未醒、足立源一郎、倉田白羊、長谷川昇、森田恒友、山本鼎、梅原龍三郎、さらに客員として石井鶴三、今関啓司、岸田劉生、木村荘八、中川一政、萬鉄五郎等が参加して15名で創立し、翌1923(大正12)年に第1回展が開催されました。その後、三岸好太郎、岡本一平、小山敬三、岡鹿之助、三雲祥之助、高田力蔵等、また版画部には長谷川潔、駒井哲郎など、日本美術史に名を刻む多くの画家たちが参加しています。
来たる2023年には第100回展を迎え、さまざまな記念展が計画されております。どうぞご期待ください。(詳しくは春陽会ホームページをご覧ください)

■「春陽会次世代を担う作家たち(仮)」展 ——— 東京都美術館 2022年12月

■ 西洋の油絵を日本独自の表現にと追求した春陽会の先達の作品展

————— 全国4美術館を巡回 2023年夏から

■「春陽会第4世代の作家たち(仮)」展 ——— 東京都美術館 2023年12月



春陽会発会当日の記念写真(1922年1月14日)

